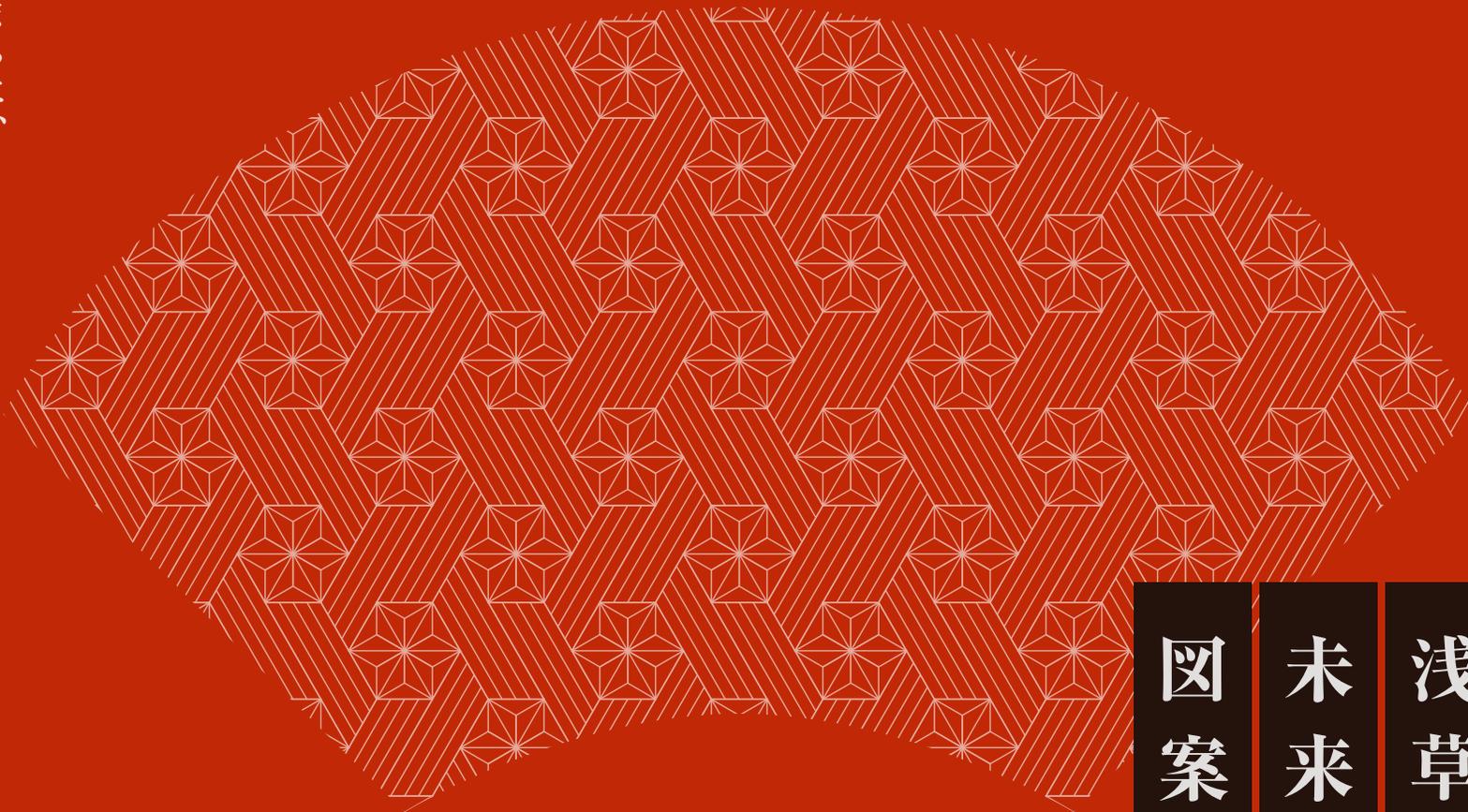


歴史のまちに、
再び新しさを取り入れよう。



図案

未来

浅草

まちづくりビジョン
(最終案)

浅草は、まちの人々とつくり上げてきたまちです。

人の心を惹きつける活気のある場をつくること、

暮らしや営みを大切にすることを

いつも心に置いて、丁寧につくり上げてきました。

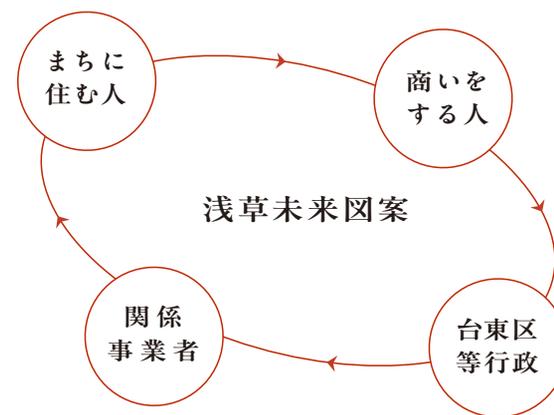
これからの浅草においても、それは同じ。

変わらず、まちの人々とともに未来を描きます。

浅草未来図案とは

浅草未来図案(以下、「本図案」という。)は、
浅草の多彩な資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていくために、
概ね20年後のまちの姿や、その実現に向けた
短期・中長期的な取り組みを示す「道しるべ」となるものです。
浅草のまちづくりは、平成19年6月の「浅草地域まちづくり総合ビジョン」策定以降、
東京スカイツリーの開業や外国人を含む観光客の増加など、取り巻く環境が大きく変化しています。
そこで本図案では、住む人や商いをする人の生活様式や、
訪れる人が求めるニーズが多様化した時代における、
これからのまちづくりの方向性を伝えます。

本図案で対象とする浅草は、
まちの中心部とその周辺エリアを含む地域とします。
本図案の取り組みは、行政だけでなく、
まちに住む人、商いをする人、関係事業者の皆様とともに
取り組んでいく内容を位置付けます。



本図案は、浅草のまちづくりに関わる多様な主体とともに、魅力あるまちづくりの実現を目指すものであり、SDGsの目標11や目標17と深く関連します。SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」では、「包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」としています。また、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」では、「持続可能な開発のための実現手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」としています。

本区においても、これらの目標の達成に向けて、本図案の着実な推進を図ってまいります。

浅草について

浅草は、創建1400年を迎える浅草寺の門前町として発展してきました。江戸時代になると、浅草は江戸市街地に吸収され、参詣・行楽・歓楽を目的とした人々があふれる江戸有数の盛り場となり、大正時代には、六区興行街を中心に娯楽文化の発信拠点となりました。大正12年の関東大震災により、当時の浅草区では約7割の家屋が焼失したとされていますが、帝都復興計画の土地区画整理事業の中で現在とほぼ同じ街路が形成され、隅田公園などの都市基盤の骨格が整備されました。

その後、戦災復興を経て、昭和中期までは一大歓楽街として盛大な活気を見せましたが、昭和39年の東京オリンピック後にカラーテレビが普及すると娯楽が多様化し、映画人気が下火になるとともに、六区興行街の勢いも失われました。苦しい衰退期を乗り越えながら、地域が主体となり、浅草サンバカーニバル等による継続的なまちおこしが推進され、浅草ROXや浅草ビューホテルの進出、つくばエクスプレスの開通、地区計画による六区興行街の再生等により、外国人観光客をはじめ多くの人が訪れるまちとなりました。

現在、浅草は交通利便性の高い地域となりました。上野や押上(東京スカイツリー)に近く、鉄道により日光、隅田川の水バスにより両国や日本橋、築地と直結しているほか、成田空港・羽田空港へのアクセスも容易です。このような移動環境が多様に充実している点も、浅草の大きな魅力の一つとなっています。



浅草の広域的な位置関係

目次

I	浅草のまちづくりの方向性	
	浅草への問いかけ	P06-07
	ビジョン：歴史がある、新しいまち浅草	P08-09
	ストーリー：二十年後から語る浅草のまちものがたり	P10-11
	コンセプト：3つの「まちづくりのコンセプト」	P12
	コンセプトの実現に向け大切にしたいポイント	P13-14

II	実現に向けた取り組み	
	まちづくりのコンセプトに基づくアプローチ	P17
	■ 快適性を磨き上げるーアプローチ1～3	P18-19
	■ 人・まちを結 ^ゆ わえるーアプローチ4～6	P20-21
	■ 文化を際立たせるーアプローチ7～9	P22-23

III	戦略的まちづくりプログラム	
	戦略的まちづくりプログラムの設定箇所	P27
	① 人中心の空間の創出プログラム	P28-29
	② 多様な地域特性の継承プログラム	P30-31
	③ 新たな回遊拠点の創出プログラム	P32-33
	④ 歴史を紡 ^{つむ} ぐ軸の創出プログラム	P34-35
	⑤ 賑わいの拠点の発展プログラム	P36-37

	まちづくりの「アイデア」	
	まちづくりの「アイデア」	P38-39

この章では、
浅草のまちづくりの方向性を掲げ、
ビジョン、ストーリー、コンセプトを
示します。

浅草の I まちづくりの 方向性

Q

歴史が

あるまち浅草は、

旧ふるいのか。



The bustle in the Six Dept., Asakusa. (Great Tokyo)

ひ賑の區六草淺 (京東大)

1,400
years of
history



A

浅草は、常に変化を
取り入れてきた
歴史がある、
新しいまち。

浅草は歴史があるまちです。

資料をひもとくと、その始まりは飛鳥時代にまでさかのぼると言われ、以来、浅草は浅草寺の門前町として1400年にわたって人々に愛されてきました。浅草が、歴史があるまちであることは疑いようがない事実ですが、ここでひとつの問いが浮かびます。

それは、歴史があるまち浅草は、旧いのか^{ふる}という問いです。

実は、浅草は旧く見えるようで、常に新しいことを取り入れ、変化してきたまちです。

時代によって変化する、愛されるまちのあり方。

これからも浅草を、まちの方々にも、まちを訪れる方々にもますます愛されるまちにしていきたい。

本図案では、そんな思いを込めて、

これから20年後を見据えた、まちのビジョンやコンセプトを描きます。

歴史がある、 新しいまち 浅草

これまで浅草が積み上げてきた歴史や文化を尊重しつつ、新しい考え方や時代の変化も柔軟に受け止めながら、まちが生まだす賑わいや魅力をさらに広げていきます。

浅草で培われてきた暮らしや営みを大切にしながら、“住むまち”としての価値も高めていきます。





二十年后から語る 浅草のまちものがたり

2047年の浅草は、浅草寺の門前町としての文化資源の価値がますます高まり、その独特の文化を求めて国内外から人々が集まるまちになっています。変わらずたくさんの人が集まるまち・浅草は、この20年間の取り組みによって、「まちづくりの理想形」として、たびたび話題に挙がるほどになりました。

まちに住む人 商いをする人 から見た浅草

浅草は、昔と比べるとずいぶん過ごしやすくなりました。かつての浅草は、まちの一部に人が集中していて、浅草寺周辺はまるで混雑時の電車に乗っているようでした。観光客が集まるエリアは避けていましたし、住んでいるまちなのに、人が多すぎて自分たちのまちではないような気持ちになることもしばしば。今では、魅力的な文化拠点が点在するようになり、たくさんの人が訪れている割に混んでいない、過ごしやすいまちになりました。

昔は観光地に住むと大変だねと心配されることもありましたが、そんなことはありません。浅草は楽しい時間を過ごすまちですから、行き交う人もみな笑顔。粋な下町人情を感じるまちの様子を見ていると、なんだかこちらもいい気分になってきます。

ここ20年の取り組みでまちが快適になり、みんなの心にもずいぶん余裕が出てきたように感じます。浅草の文化を際立たせる試みの中で、六区ブロードウェイを中心に娯楽施設が増えました。どこでも娯楽にアクセスできる時代と言われて久しいですが、こんなに「本物」を感じる娯楽が楽しめるまちは、浅草を置いてほかにありません。

浅草には多面的な魅力があります。少し歩くとまちの景色がめまぐるしく変わります。観光・産業・商業・芸能そして隅田川の自然…。時間軸という観点でも浅草は多面的。一年を通して地域行事があり、そのたび季節の移ろいを感じさせてくれます。

歴史があるからこそ、ほかのまちには真似できないオリジナリティがあり、その唯一性を求めて「このまちに住みたい」という若者も集まっています。

まちを支える若い世代が集まってきているのも、浅草がまちづくりの理想形として注目される理由のひとつですね。

まちを訪れる人から見た浅草

浅草はまず、入口からしてすばらしいまちです。隅田川から浅草に向かう小さな船旅は、特別な気分が味わえます。デッキに出て、気持ちいい風と太陽を浴びながら北へ進み、すれ違う船の乗客が見えると、こちらもよりいっそう心が躍ります。この20年で隅田川の水上交通はその価値が見直され、ずいぶん多くの船が行き交うようになりました。

江戸・東京の人々の暮らしに想いを馳せて景色を眺めていると、あっという間に浅草の船着き場に到着します。そこには広い空と豊かな水辺が広がっていて、ここでしばらく時間を過ごしたくなります。この水辺は、まちづくりを研究する世界中の有識者が視察に訪れるほどレベルが高く、これだけ美しい景観を持ちながら、災害対策にもなっているというから驚きです。また、浅草は多くの人が日常的に利用する鉄道

も特別です。駅には、このまちらしい演出が施され、「いよいよ浅草に来たな」という気持ちにさせてくれます。かつて、使い勝手が悪いと言われた地下空間も、今は見る影もありません。バリアフリーが施され、誘導サインもわかりやすく、各路線の行き来もしやすい。利便性とオリジナリティが見事に融合したまちの入口になっています。雷門・仲見世通り・浅草寺…。古くから続く門前町には、今日も活気と下町情緒で満ちています。長年浅草で商売をされている方からまちの歴史や見所を教えてもらったりできるのは、まさに浅草ならではの「粋な買い物体験」だと感じます。

まちの中心部を楽しんだ後は、観光情報にアクセスして、周囲のエリアを楽しみます。近くであれば歩いて安全に行けますし、少し離れたエリアでも、さまざまなモビリティがあるので安心です。まちの情報や中心部以外のエリアにアクセスしやすくなったのも、この20年の大きな変化。エリアごとに特色があり、年中地域行事をやっている浅草は、訪れるたびに新しい発見と出会えるまちですね。

3つの「まちづくりのコンセプト」

まちに住む人、商いをする人、関係事業者らの声から描いた浅草を実現するために、本図案では、3つの「まちづくりのコンセプト」を立てます。

快適性を 磨き上げる

季節の移ろいにあわせ、
多面的な魅力が広がる。
人とまちの安全に配慮された
取り組みが進む。
多様な移動手段が結びつき、
アクセス性が高まる。



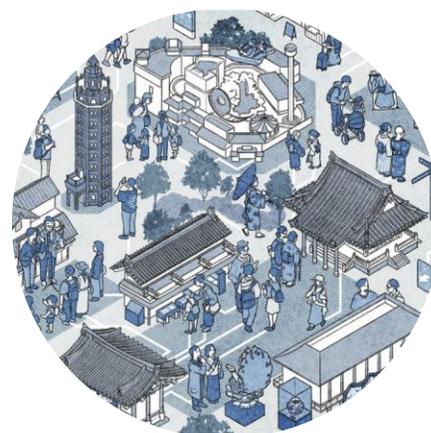
人・まちを 結わえる

エリアごとに特色のあるまちで
ゆったり過ごす。
駅まち空間では、浅草に来た
「高揚感」が高まる。
水辺とまちが近く、船に乗れば
色々な場所へ行ける。



文化を 際立たせる

下町情緒溢れる文化拠点が
あちこちに点在する。
ここにしかない文化・
コンテンツがたくさんある。
たくさんの人を心地良くさせる
おもてなしがある。



コンセプトの実現に向け大切にしたいポイント

浅草は、浅草寺を中心に商業施設が多く立地し、観光や賑わいの要素が際立ちます。また、言問通り以北の観音裏と呼ばれるエリアや国際通り以西の西浅草などでは、住宅も分布し、地域の生活に根差した商店街も有しています。

人通りについては、仲見世・新仲見世・六区ブロードウェイなどでは訪れる人が密集する一方で、観音裏や西浅草などでは落ち着いている状況です。

浅草には多様な地域特性と魅力があり、場所に応じた取り組みを進めることが大切です。

例えば、

空間をつくる

人通りの多い場所では、滞留のためのゆとりを確保するために新たな空間を創出する。

滞在の質を高める

観光客が多く訪れる場所では、おもてなしや滞在の質を高める。

生活・文化を守る

地域の暮らしが根付いた場所では、その生活や文化を大切に守る。

このような多面的な取り組みを場所にあわせて選択し、繋ぎ合わせることで、まちづくりのコンセプトの実現に繋がります。浅草のまちがさらに成熟していきます。

来街者の回遊動向(人流の傾向)



データ取得: 令和7年5月4日
(株式会社プログウォッチャーの非集計ODデータを基に作成)

来街者の動向は、人通りが多い場所と少ない場所で分かれています。鉄道駅周辺や六区ブロードウェイ、仲見世・新仲見世の通りでは、人の集積と広がりが見られます。一方、観音裏や西浅草、隅田公園など浅草寺から離れたエリアでは、人の集積は控えめとなっています。

主な地域資源(モノ・コト)の状況



浅草寺周辺の観光の中心となるエリアから観音裏や西浅草などのまちの人が住まうエリアまで、各場所の個性を活かしたお祭りやイベント、地域の暮らしに根ざした産業や文化など、魅力ある地域の資源が数多く展開されています。

※1: Copyright by 松尾香龍

※2: 写真提供: 浅草サンバカーニバル実行委員会

※本図案の検討の一環として実施した浅草地区観光まちづくり推進協議会主催のワークショップに基づき、エリアと色分けを行っています。

■ 土地利用の現況 (R3)

浅草寺周辺の中心エリアには商業用地が多く、四方の大通りを超えたエリアから住宅用地が多く分布しています。また、地域の北側や西側には工業用地が点在しています。



- 住宅用地
- 商業用地
- 工業用地
- 公共用地
- 公園、運動場等
- 鉄道・港湾等
- 未利用地等
- 水面

出典：
土地利用現況調査
(東京都, 令和3年度)

■ 建物別築年数 (R3)

築年数が新築～10年未満の建物も見られますが、大半が40年以上経過した建物となっており、今後、多くの建物の更新が図られることが想定されます。

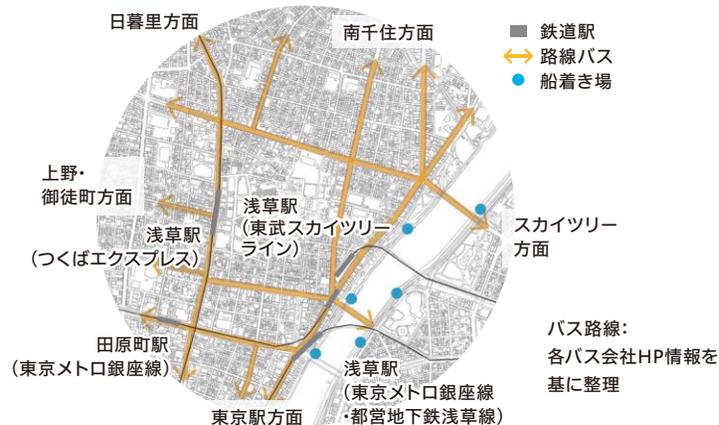


- 40年以上
- 30年以上～40年未満
- 20年以上～30年未満
- 10年以上～20年未満
- 新築～10年未満
- 不明

出典：
土地利用現況調査
(東京都, 令和3年度)

■ 交通(鉄道・路線バス・舟運)の状況

東西あわせて4路線の鉄道駅があり、各駅を経由する形で路線バスのルートが形成されています。また、船着き場が南北にかけて複数箇所に整備されており、舟運による広域的な移動も可能となっています。



- 鉄道駅
- ⇄ 路線バス
- 船着き場

バス路線：
各バス会社HP情報を
基に整理

■ 商店街等の分布

多くの通りに、個性豊かな商店街等が集積しています。また、観音裏や西浅草においては近隣型商店街といわれる、主に住む人が徒歩や自転車などにより日用品等の買い物を行う商店街が分布しています。



- 商店街等

分布状況：
令和6年11月1日時点

II

実現に向けた 取り組み

この章では、
前章の「まちづくりのコンセプト」に基づき、
浅草の特性を踏まえた、つのアプローチを掲げ、
各アプローチに沿った
具体的な取り組みについて示します。

まちづくりの コンセプトに 基づくアプローチ

魅力ある空間の質や人の心(ホスピタリティ)を向上させ、**快適性を磨き上げる**こと。

エリア内の通りや軸を空間的・心理的につなぎ、**人・まちを結わえる**こと。

まちのなかに散りばめられた魅力を明確にし、**文化を際立たせる**こと。

これらのコンセプトに基づき、

9つのアプローチを掲げ、

まちづくりの取り組みを推進していきます。

快適性を 磨き上げる

- 01 暮らしと観光を共存させる
- 02 人とまちを安全に
- 03 まちの移動をスムーズに

人・まちを 結わえる

- 04 居心地の良い空間をつくる
- 05 駅とまちをつなぐ
- 06 水辺とまちを
むすぶ

文化を 際立たせる

- 07 表舞台をつくる
- 08 ならではに
こだわる
- 09 おもてなしの
質を上げる

快適性を磨き上げる

未来のまちの姿

四季の行事や歴史を継承し、浅草で紡がれてきた生き生きとした暮らしや営みが身近にあるまち

新たな価値観を柔軟に受け入れ、住む人・商いをする人・訪れる人が調和して快適に過ごせるまち

訪れる人にも優しく、国際観光拠点にふさわしい災害時にも不安感0のまち



暮らしと観光を 共存させる

浅草に住む人・商いをする人・訪れる人が互いに交流できる取り組みを広げながら、まちづくりの担い手を育てていくとともに、最新技術やデータを活用し、住む人は便利に、訪れる人は快適に、そして地元のサービスや観光業がより魅力的になる工夫をしていきます。

建物の更新時における浅草独自のルールにより、浅草らしい歴史や風情、賑わいある街並みを守ります。

実現に向けた取り組み

【短期】

- 住む人・商いをする人・訪れる人が調和しながら過ごせる生活空間の確保
- 通りの賑わいを維持・向上させる、まちづくりの担い手の育成
- 商店街等における人と人がつながる機会の創出
- 暮らしや観光の快適性・利便性向上につながる、まちづくりデータ基盤の構築

【中長期】

- 住む人・商いをする人・訪れる人にとって魅力的な空間・施設の再編
- 通りや水辺空間の賑わい創出と維持管理に取り組むエリアマネジメントの活性化
- 浅草で起業したい人々がチャレンジできる機会の創出

人とまちを 安全に

地上・地下のオープンスペースを拡充し、日常利用と災害時避難場所の両機能を強化し、安全性を高めます。

災害時対応の強化、避難ネットワークの構築、気候変動対応のグリーンインフラ導入、無電柱化の推進など、防災・減災対策を進めます。

実現に向けた取り組み

【短期】

- 多様な訪れる人に向けた、観光施設や駅周辺等における防災・災害情報発信の充実
- 帰宅困難者に関する避難誘導対策の強化
- 大規模災害時の人や物資の輸送手段の確保

【中長期】

- 平常時や災害時にも多目的に活用できる、駅前や主要な通り沿道におけるオープンスペースの整備
- 酷暑や豪雨等、近年の気候変動にも対応した、安全かつ快適な屋外空間の整備
- 避難場所等へ安全かつスムーズに移動ができる通りの創出
- 都市基盤整備にあわせた、備蓄倉庫等の防災機能の充実

まちの移動を スムーズに

社会実験を通じて既存交通のあり方を整理し、歩行者空間とのすみ分けを明確化します。

歩行者中心の道路空間の形成に加え、路線バスやタクシー等の公共交通、舟運等の浅草ならではの移動手段との結びつきを強化します。

実現に向けた取り組み

【短期】

- 地域の既存交通の整理

【中長期】

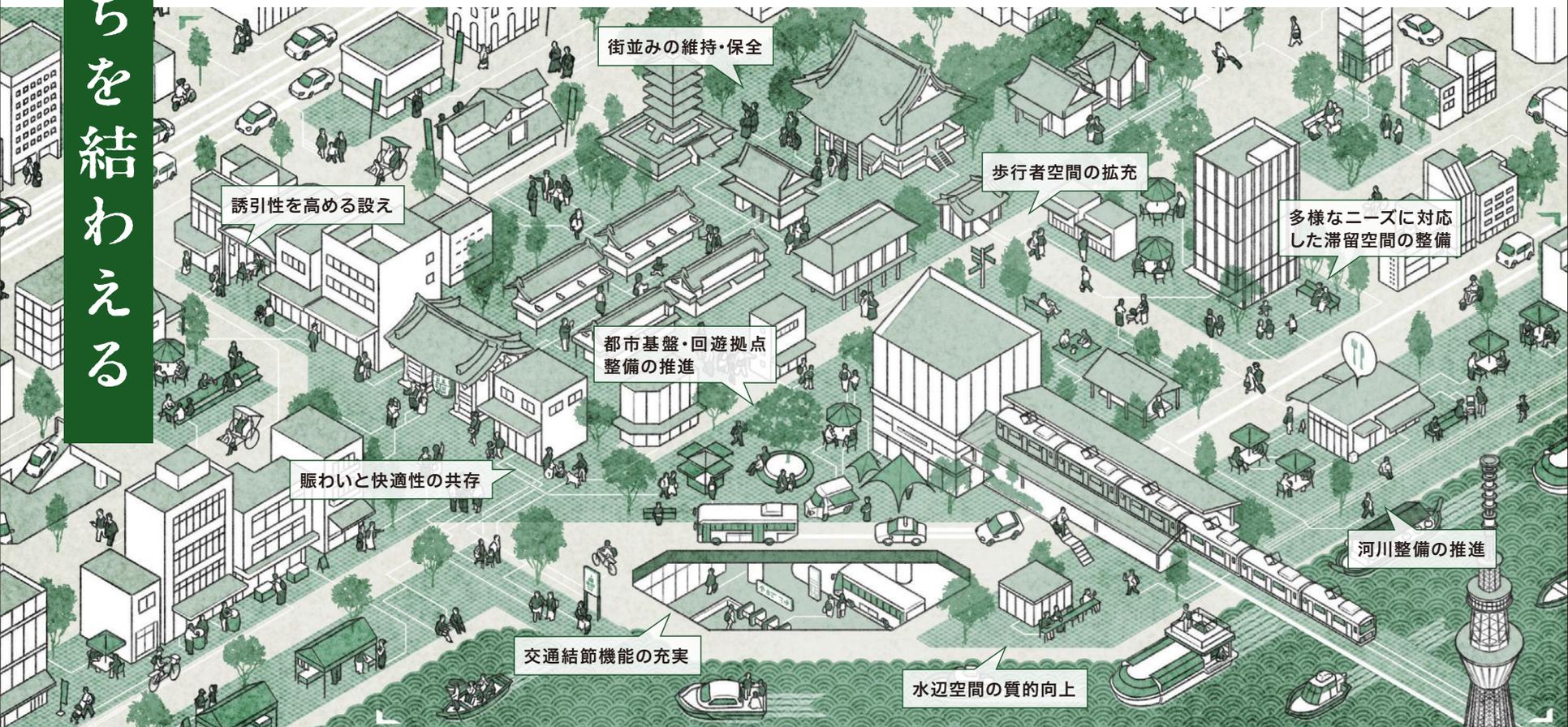
- 新たなモビリティ活用に向けたルールづくり
- 周辺地域とのつながりを強化する、自転車や新しいモビリティ等を活用した交通ネットワークの形成
- 都市基盤整備にあわせた、観光バスや自転車の駐車場等の都市施設の確保

未来のまちの姿

広域的な軸や地域の外への広がりに寄与する拠点づくりが進んだまち

駅とまちが一体的につながり、誰もが分かりやすく使いやすい交通結節点があるまち

住む人・商いをする人・訪れる人がともに楽しめるような、やすらぎと賑わいが調和する水辺空間が身近にあるまち



居心地のよい 空間をつくる

イベントや社会実験を通じて公共空間の活用方法を検証し、歩いて楽しい歩行者空間や滞留空間の充実を段階的に進めます。

通りごとの個性を活かした舗装・ファサードの美化を進め、各場所の街並みや空間デザインに配慮するとともに、浅草の歴史ある建物や雰囲気を持・保全し、多くの人にその歴史を感じてもらえるようにします。

実現に向けた取り組み

【短期】

- 未来のまちの姿につながる空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 浅草の個性や文化を感じさせる建物や街並みの維持・保全

【中長期】

- 賑わいと快適性を共存させる、主要な通りや駅前での歩行者空間の拡充
- 休憩や待合せなど多様なニーズに対応した滞留空間の充実
- エリア内外の個性ある資源を訪れたいくなる、人々の往来や誘引性を高める設え
- ストーリー性を感じることができる商店街ファサードの整備

駅とまちを つなぐ

駅とまちをつなぐため、新たな都市基盤・回遊拠点を形成するとともに、交通事業者と連携し、バリアフリー化を含めた利便性の高い乗換空間づくりを進めます。

利用者がスムーズに移動できるネットワークを構築し、わかりやすく移動しやすい地下空間の再整備を進めます。

実現に向けた取り組み

【短期】

- まちづくりプログラムの推進協議会等での検討

【中長期】

- 浅草3駅(東武・メトロ・都営)を中心とした、新たな都市基盤・回遊拠点整備の推進
- 浅草駅(TX)や田原町駅と六区ブロードウェイとのつながりを意識した回遊の促進
- 鉄道・バス・水上バス・タクシー・新たなモビリティ等の交通結節機能の充実
- まちづくりにあわせた東武浅草駅の更新
- 平常時や有事の際の利用のしやすさに配慮した、地下空間の再整備

水辺とまちを むすぶ

隅田川や隅田公園、川沿いのまちをつなぐ空間整備で人々の往来と賑わいを創出し、周辺のウォーターフロントにアクセスできるよう、舟運や防災船着場の活用を進めます。

まちづくりと連携したスーパー堤防等の整備により、平常時も災害時も人が集まれる拠点を創出します。

実現に向けた取り組み

【短期】

- 水辺空間の利活用・維持管理に向けた民間主体による河川空間マネジメントの推進
- 水辺に居心地よく滞在できるイベント等との連携・PR促進

【中長期】

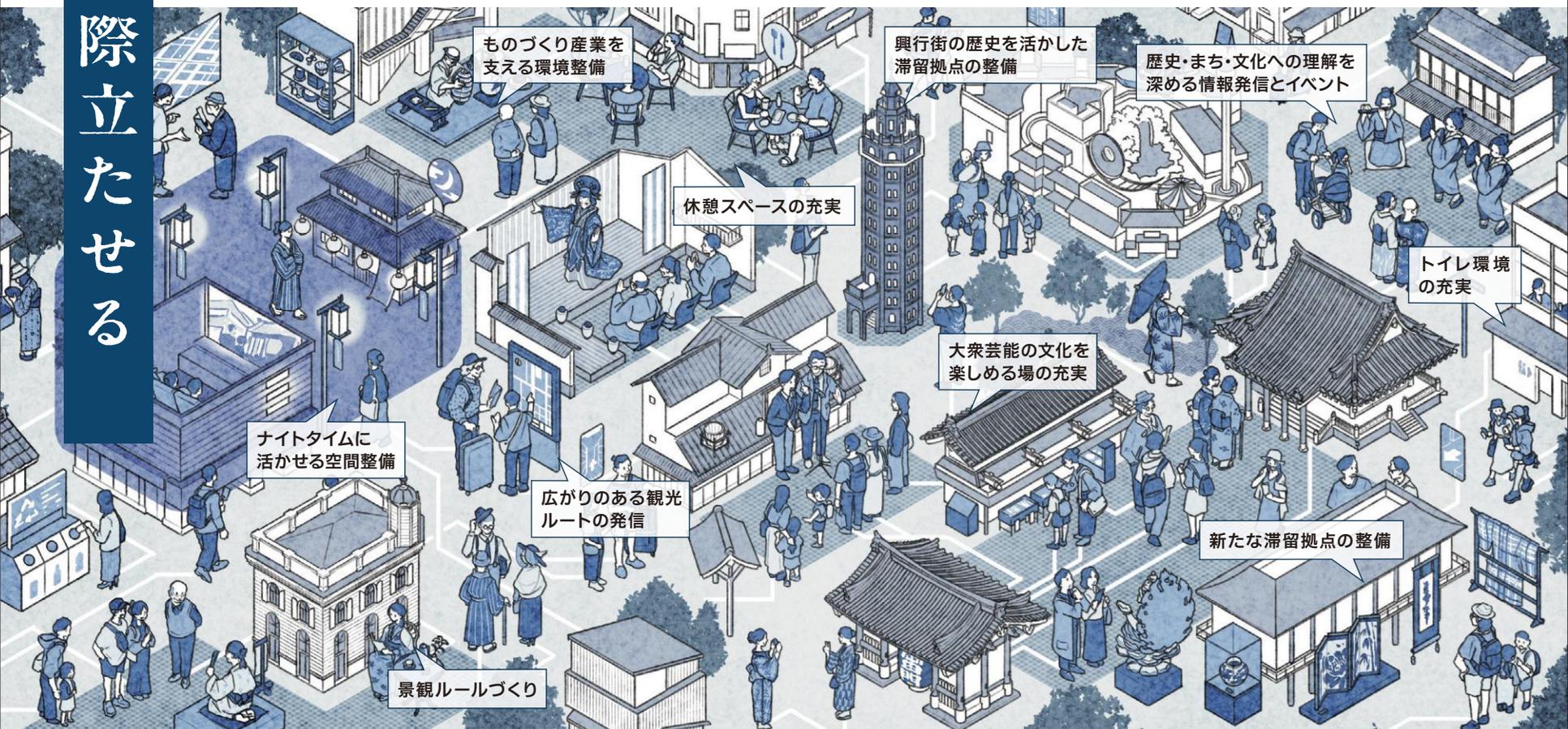
- 隅田川や川沿い街区のまちづくりと連携したスーパー堤防等の河川整備の推進
- 水辺にゆとりと潤いをもたらす、緑化の充実やベンチ、サイン等による水辺空間の質的向上
- 舟運での広域的なつながりの強化

未来のまちの姿

伝統と革新が調和し、国際観光拠点として国内外の多くの人々が魅力を感じる多面的な文化や、芸能・娯楽があるまち

街並みや地域資源の継承・活用を通じて、浅草に根付く歴史や文化、産業を大切にすることを伝えられるまち

浅草のまちに思いやりや心からのおもてなしが溢れ、誰もが快適に受け入れることができるまち



表舞台をつくる

浅草寺などの文化資源を大切に育みながら、浅草独自の伝統・文化・芸能を活かした多様なイベントを提供し、ブランド価値を高める場づくりを進めます。

景観やまちの特性に配慮したルール導入と空間整備により、浅草に住む人・商いをする人・訪れる人が誇りに思えるまちを目指します。

実現に向けた取り組み

【短期】

- 1400年を超える歴史文化を伝える、新たな滞留拠点の整備
- 伝統ある文化と活気に溢れた、浅草らしさを感じられる屋外広告物等の景観ルールづくり
- 生活に根付いた祭りやイベントにあわせて柔軟にかたちを変えるまちの環境整備

【中長期】

- 興行街の歴史を活かしたエリアのシンボルとなる滞留拠点の整備事業の推進
- 「芸の聖地」浅草の大衆芸能の文化を体験し、楽しめる場の充実

ならではにこだわる

浅草の歴史・文化・魅力を様々なメディアや手法で積極的に発信し、多くの人に学びや発見の機会を提供します。

「浅草でしかできない体験」を磨き上げ、国内外に戦略的にプロモーションすることで、訪れる方に希少性の高い体験を楽しんでもらいます。

実現に向けた取り組み

【短期】

- 幅広い世代に向けた、浅草の歴史・まち・文化への理解を深めるための情報発信とイベントの実施
- 付加価値の高いものづくり産業を支える環境整備
- 広がりのある浅草を楽しめる、おすすめの見学ルートの発信

【中長期】

- 住む人・訪れる人がともに堪能できる、環境変化に応じた個店力の強化

おもてなしの質を上げる

快適に観光してもらうための休憩スペースや案内サービスなどの受入環境を段階的かつ計画的に整備・充実していきます。

住む人・商いをする人・訪れる人が快適に過ごせるよう、衛生環境の整備や訪れる人へのマナー啓発、住み心地のよい受入環境の実現など、持続可能な観光地づくりを進めます。

実現に向けた取り組み

【短期】

- 公共空間や空き店舗などを活用した休憩スペースや案内サービスの充実
- 住む人と訪れる人の互いの理解を深めるマナー啓発の実施
- まちなかのトイレ環境の充実
- ナイトタイムでも楽しめる滞留空間やコンテンツづくりの整備

【中長期】

- 持続可能な観光の促進に向けた受入環境整備

この章では、前章の各取り組みのうち、浅草における未来のまちの姿の実現に特に影響するものを

「戦略的まちづくりプログラム」として束ね、プログラム単位で進め方や実現イメージについて示します。

III 戦略的 まちづくり

プログラム

戦略的まちづくり プログラムの設定箇所

「戦略的まちづくりプログラム」は、空間として大きく再編される場所、現状の空間を維持しつつ魅力を増やしていく場所の中でも、まち全体に好影響が広がり、波及効果が最大化されていくことを狙いとして、場所と取り組みを戦略的に抽出し、整理しています。

1 人中心の空間の創出プログラム

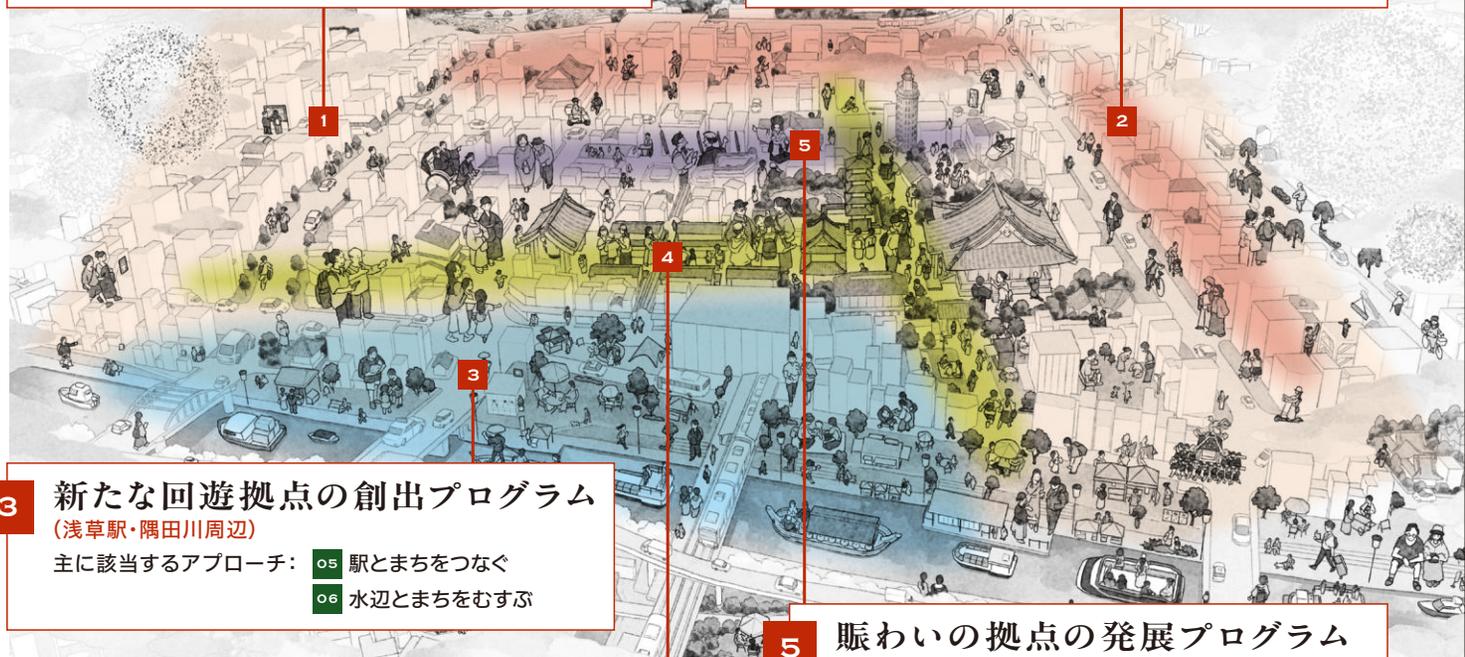
(浅草全体)

- 主に該当するアプローチ:
- 03 まちの移動をスムーズに
 - 04 居心地のよい空間をつくる
 - 09 おもてなしの質を上げる

2 多様な地域特性の継承プログラム

(観音裏・西浅草等周辺)

- 主に該当するアプローチ:
- 01 暮らしと観光を共存させる
 - 04 居心地のよい空間をつくる
 - 08 ならではにこだわる



3 新たな回遊拠点の創出プログラム

(浅草駅・隅田川周辺)

- 主に該当するアプローチ:
- 05 駅とまちをつなぐ
 - 06 水辺とまちをむすぶ

4 歴史を紡ぐ軸の創出プログラム

(東参道・二天門通り周辺、浅草寺周辺)

- 主に該当するアプローチ:
- 02 人とまちを安全に
 - 07 表舞台をつくる

5 賑わいの拠点の発展プログラム

(六区ブロードウェイ周辺)

- 主に該当するアプローチ:
- 07 表舞台をつくる
 - 09 おもてなしの質を上げる

1 人中心の空間の創出プログラム（浅草全体）

ありたい姿

空間の再編・創出を行い、「歩いて楽しい空間」をまちのあちこちに広げます。

- 訪れる人で溢れているまちなかでは、混雑が解消され、快適な訪問・滞在ができる環境を整備するとともに、周辺地域との緩やかなつながりを確保します。
- 空間の利活用にまつわるイベントや社会実験を重ね、歩いて巡ることやさまざまなシーンでの活用を楽しめる空間づくりを推進します。
- 浅草ならではのルールをつくり、良好な街並みや景観の形成、環境づくりを推進します。
- 観音裏や西浅草等の生活が息づくエリアでは、魅力ある伝統文化や風情など、そのエリアごとの特性を大切にした住環境を確保します。

取り組み

- 通りの賑わいを維持・向上させる、まちづくりの担い手の育成
- 暮らしや観光の快適性・利便性向上につながる、まちづくりデータ基盤の構築
- 生活に根付いた祭りやイベントにあわせて変化が可能となるまちの環境整備
- 住む人・商いをする人・訪れる人が調和しながら過ごせる生活空間の確保
- 広がりのある浅草を楽しめる、おすすめの見学ルートの発信
- まちなかのトイレ環境の充実
- 地域の既存交通の整理
- 伝統ある文化と活気に溢れた、浅草らしさが感じられる屋外広告物等の景観ルールづくり
- 平常時や災害時にも多目的に活用できる、駅前や主要な通り沿道におけるオープンスペースの整備
- 避難場所等へ安全かつスムーズに移動ができる通りの整備
- 新たなモビリティ活用に向けたルールづくり
- 賑わいと快適性を共存させる、主要な通りや駅前での歩行者空間の拡充
- エリア内外の個性ある資源を訪れたいくなる、人々の往来や誘引性を高める設え
- 持続可能な観光の促進に向けた受入環境整備
- 周辺地域とのつながりを強化する、自転車や新しいモビリティ等を活用した交通ネットワークの形成

進行イメージ

浅草寺創建
1400年

東武浅草駅開業・隅田公園開園
震災復興100周年

計画見直し
予定

台東区
100周年

2028
頃

2030
頃

2038
頃

2047
頃

- ・エリアマネジメント団体等の組成
- ・歩行者空間の拡充に向けた社会実験や目指すべき方向性の検討
- ・モデル地区における街並みの維持に必要な建替えルールの検討
- ・多様なニーズを踏まえた受入環境に向けた検証
- ・主要な通りや駅前における景観、駐車場、自転車等のルール導入に向けた検討

- ・エリアマネジメント人材の育成
- ・社会実験やあり方検討を踏まえた、道路空間や地下空間等の歩行者空間拡充方針の作成
- ・雷門通りや並木通りなどにおける広場空間の検討
- ・モデル地区における街並みの維持に必要な建替えルールの導入
- ・受入環境の段階的な運用
- ・主要な通りや駅前における景観、駐車場、自転車等のルールの作成

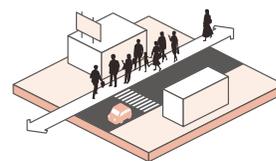
- ・エリアマネジメントによる持続可能な活動の展開
- ・街並みの維持保全・適切な建物更新
- ・地区内の各街路ごとや通りごとの個性に応じた建替えルールづくりの推進
- ・道路空間や地下空間等の歩行者空間拡充ネットワークやオープンスペースの実現
- ・時代のニーズに即した、持続可能な受入環境の運用
- ・景観、駐車場、自転車ルール等の運用

未来のまちのイメージ



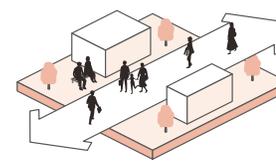
訪れる人で溢れ、混雑していたまちなかでは、広々と歩けて滞留もしやすい空間が整備され、快適な時間を過ごせるようになっています。

概念図



■ 現状

歩行者空間が狭く混雑し、街並みの中で広告が目立つ等、空間として人が中心でなく快適さに欠ける状況です。



■ 未来

混雑する歩行者空間等の改善や浅草独自のルールの導入により、住む人・訪れる人が目的地までの道のりを快適に感じられる、歩いて楽しい空間を創出します。

2 多様な地域特性の継承プログラム（観音裏・西浅草等周辺）

ありたい姿

魅力ある地域の資源と住み心地のよい環境を維持・保全し、「多様な地域特性の継承」として発展させます。

- 地域の生活やなりわいが息づく場所では、歴史や文化に育まれた風情、たたずまいを大切にしながら、エリアごとの特性を活かした住環境を確保します。
- 浅草ならではの考え方を共有し、住む人・商いをする人にとって、地域の営みに寄り添いながら住み働き続けられる環境づくりを推進します。
- 地域の特性を大切にしながらも、社会の変化に合わせて工夫を加えることで、地域の資源の質を高めるだけでなく、新しい資源の創出を推進します。

取り組み

- 幅広い世代に向けた、浅草の歴史・まち・文化への理解を深めるための情報発信とイベントの実施
- 商店街等における人と人がつながる機会の創出
- 公共空間や空き店舗などを活用した休憩スペースや案内サービスの充実
- 付加価値の高いものづくり産業を支える環境整備
- 住む人・商いをする人・訪れる人が調和しながら過ごせる生活空間の確保
- 住む人と訪れる人の互いの理解を深めるマナー啓発の実施
- 浅草の個性や文化を感じさせる建物や街並みの維持・保全
- ナイトタイムでも楽しめる滞留空間やコンテンツづくりの整備
- 伝統ある文化と活気に溢れた、浅草らしさが感じられる屋外広告物等の景観ルールづくり
- 浅草で起業したい人々がチャレンジできる機会の創出
- ストーリー性を感じることができる商店街ファサードの整備
- 住む人・訪れる人がともに堪能できる、環境変化に応じた個店力の強化
- 住む人・商いをする人・訪れる人にとって魅力的な空間・施設の再編
- 持続可能な観光の促進に向けた受入環境整備
- 休憩や待合せなど多様なニーズに対応した滞留空間の充実

進行イメージ

浅草寺創建
1400年

東武浅草駅開業・隅田公園開園
震災復興100周年

計画見直し
予定

台東区
100周年

2028
頃

2030
頃

2038
頃

2047
頃

- ・地域の特色を活かした生活に寄り添う商店街の活動の継続的な実施や魅力発信
- ・訪れる人へのマナー啓発の実施
- ・住み心地のよい住環境に向けた調査検討
- ・地域とまちの目指すべき方向性の検討
- ・街並みの維持に必要な建替えルールの検討
- ・日中との連続性を踏まえた夜間景観のルールの検討

- ・商店街の活動の担い手の充実
- ・訪れる人へのマナー啓発の推進
- ・住み心地のよい住環境に向けた取り組みの段階的な運用
- ・地域との検討を踏まえたまちづくりに関するルールの導入、地域による運用
- ・街並みの維持に必要な建替えルールの導入
- ・日中との連続性を踏まえた夜間景観ルールの作成

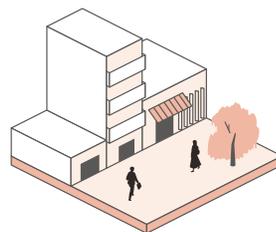
- ・商店街の活動を通じた人の交流が生まれる機会の次世代への継承
- ・個性豊かな商店街や魅力ある個店の集積
- ・住む人・商いをする人の快適性に寄与する受入環境整備の推進
- ・まちづくりに関するルールによる、暮らしや営みの質的向上
- ・通りごとの個性に応じた建替えルールの浅草全体での展開
- ・日中から夜間まで連続した魅力を持つ街並み景観の形成

未来のまちのイメージ



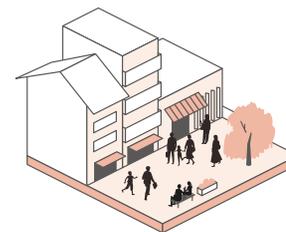
地域の生活やなりわいが息づく場所において、そのエリアの特性を生み出す資源を大切に、住む人たちが憩える空間を整えることで、特性を活かした住み心地の良い環境が広がっていきます。

概念図



■ 現状

風情ある街並みが残るものの、画一的な建物や無秩序に訪れる人が増えることで、まち特有の良さが失われる可能性があります。



■ 未来

建物更新時に風情に合ったファサードを形成するとともに、地域特性に配慮した独自ルールを導入することで、まちの価値をさらに向上させます。

3 新たな回遊拠点の創出プログラム（浅草駅・隅田川周辺）

ありたい姿

滞留空間の創出・交通結節機能の充実・拡充を行い、これとともに浅草駅や地下空間を更新した「浅草の新たな回遊拠点」として発展させます。

- 鉄道・バス・水上バスなどの公共交通の利用がしやすく、利便性が高い交通環境を確保します。
- 隅田川周辺では、水辺とまちが一体的につながった空間づくりを推進します。
- 観光や平常時の憩いだけでなく、災害時の避難にも対応できる空間を確保します。

取り組み

- 未来のまちの姿につながる空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- まちづくりプログラムの推進協議会等での検討
- 水辺空間の利活用・維持管理に向けた民間主体の河川空間マネジメントの推進
- 水辺に居心地よく滞在できるイベント等との連携・PR促進
- ナイトタイムでも楽しめる滞留空間やコンテンツづくりの整備
- 大規模災害時の人や物資の輸送手段の確保
- 浅草3駅(東武・メトロ・都営)を中心とした、新たな都市基盤・回遊拠点整備の推進
- 鉄道・バス・水上バス・タクシー・新たなモビリティ等の交通結節機能の充実
- 隅田川や川沿い街区のまちづくりと連携したスーパー堤防等の河川整備の推進
- 都市基盤整備にあわせた、観光バスや自転車の駐車場等の都市施設の確保
- 平常時や有事の際の利用のしやすさに配慮した、地下空間の再整備
- 舟運での広域的なつながりの強化
- まちづくりにあわせた東武浅草駅の更新
- 水辺にゆとりと潤いをもたらす、緑化の充実やベンチ、サイン等による水辺空間の質的向上

進行イメージ

浅草寺創建
1400年

東武浅草駅開業・隅田公園開園
震災復興100周年

計画見直し
予定

台東区
100周年

2028
頃

2030
頃

2038
頃

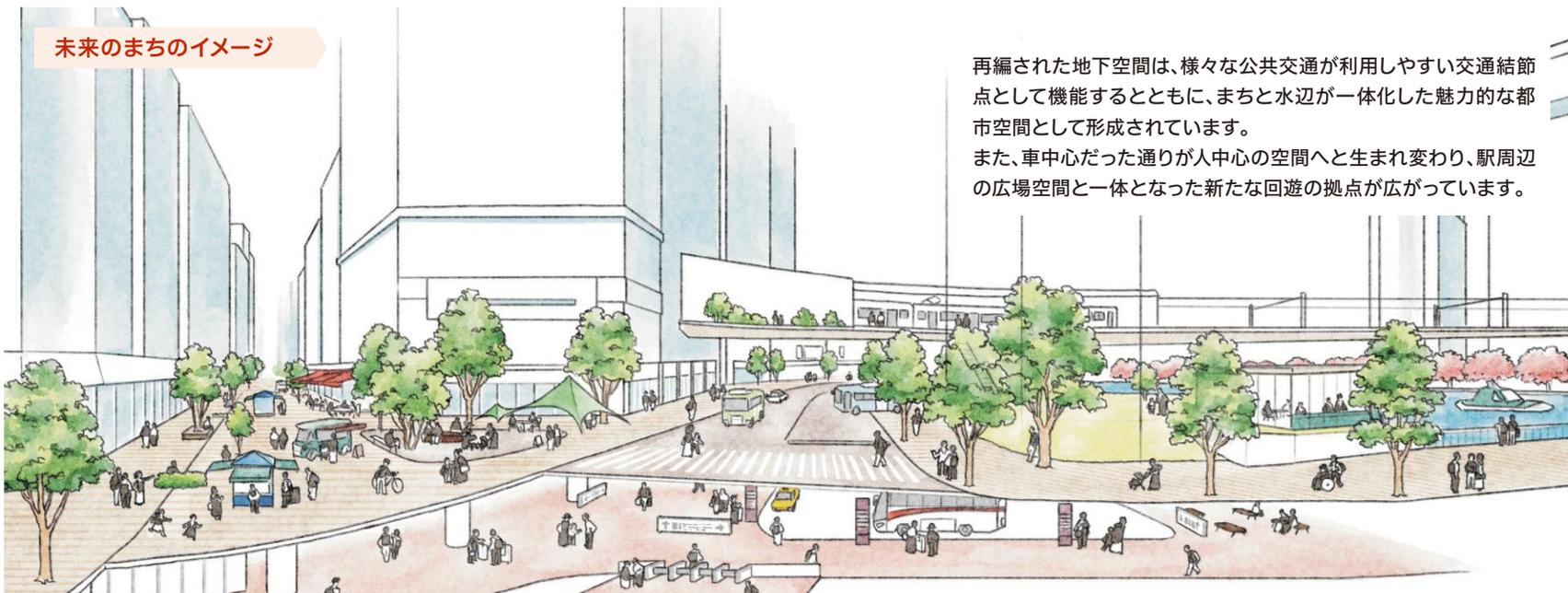
2047
頃

- ・公共空間利活用に向けた社会実験
- ・浅草3駅周辺を中心とした都市基盤整備の検討(交通結節拠点機能・駅前広場・道路空間・地下空間・バリアフリー・防災機能・河川整備・まちと水辺をつなぐ基盤強化 等)
- ・観光などに資する舟運ネットワークの検討

- ・社会実験も踏まえた、浅草3駅周辺を中心とした都市基盤整備方針の作成
- ・水辺空間が目的地となるイベントの充実
- ・防災船着場の平常時利用拡大

- ・浅草3駅周辺を中心とした都市基盤整備の実現
- ・まちづくりにあわせた東武浅草駅の更新
- ・舟運ネットワークの形成・上下流との舟運の拠点化
- ・エリアマネジメントによる、水辺を中心とした公共空間の維持管理

未来のまちのイメージ



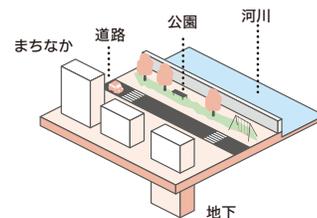
再編された地下空間は、様々な公共交通が利用しやすい交通結節点として機能するとともに、まちと水辺が一体化した魅力的な都市空間として形成されています。

また、車中心だった通りが人中心の空間へと生まれ変わり、駅周辺の広場空間と一体となった新たな回遊の拠点が広がっています。



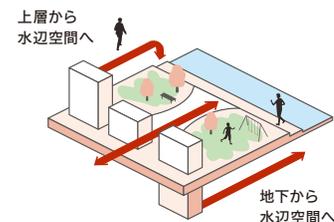
水辺とまちが一体的につながる親水空間が整備され、水上バスの利用促進も図られており、昼も夜も、人々が思い思いに時間を過ごせる心地よい滞留空間となっています。

概念図



■ 現状

堤防や道路等によりまちなかと水辺空間が分断されており、空間としてのつながりに欠ける状況です。



■ 未来

まちづくりにあわせて、水辺に親しめる空間を創出するとともに、複層的にまちと水辺をつなげることで、まちなかと水辺空間のつながりを再生します。

4 歴史を紡ぐ軸の創出プログラム (東参道・二天門通り周辺、浅草寺周辺)

ありたい姿

住む人や訪れる人が快適に回遊できる動線を整備し、「浅草の歴史を紡いできた二大空間(浅草寺・隅田川)を結わえる軸」として発展させます。

- 浅草寺と隅田川の往来を促進するような動線を確保します。
- 二天門前や隅田公園近辺では、東西の往来を十分に受け止め、歩行者がゆったりと滞留できる空間を確保します。
- 浅草寺周辺や浅草寺と隅田川をつなぐ参道において、建物ファサードや屋外広告物等の統一感ある景観づくりを推進します。

取り組み

- 1400年を超える歴史文化を伝える、新たな滞留拠点の整備
- 幅広い世代に向けた、浅草の歴史・まち・文化への理解を深めるための情報発信とイベントの実施
- 未来のまちの姿につながる空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 水辺に居心地よく滞在できるイベント等との連携・PR促進
- 伝統ある文化と活気に溢れた、浅草らしさが感じられる屋外広告物等の景観ルールづくり
- 帰宅困難者に関する避難誘導対策の強化
- 通りや水辺空間の賑わい創出と維持管理に取り組むエリアマネジメントの活性化
- エリア内外の個性ある資源に訪れたいくなる、人々の往来や誘引性を高める設え
- 住む人・商いをする人・訪れる人にとって魅力的な空間・施設の再編
- 都市基盤整備にあわせた、観光バスや自転車の駐車場等の都市施設の確保
- 平常時や災害時にも多目的に活用できる、駅前や主要な通り沿道におけるオープンスペースの整備
- 酷暑や豪雨等、近年の気候変動にも対応した、安全かつ快適な屋外空間の整備
- 都市基盤整備にあわせた、備蓄倉庫等の防災機能の充実
- 避難場所等へ安全かつスムーズに移動ができる通りの整備

進行イメージ

浅草寺創建
1400年

東武浅草駅開業・隅田公園開園
震災復興100周年

計画見直し
予定

台東区
100周年

2028
頃

2030
頃

2038
頃

2047
頃

- ・浅草寺を中心とした滞留拠点の再整備の検討
- ・公共空間利活用に向けた社会実験
- ・浅草寺周辺における景観に関する調査検討
- ・東参道・二天門通り周辺の公共空間の再編や活用に向けた検討

- ・浅草寺を中心とした滞留拠点の再整備
- ・公共空間における魅力的な都市機能の誘致や導入の検討
- ・浅草寺周辺における屋外広告物等の景観ルールの作成
- ・歩行者空間の拡充を踏まえた避難動線や空間等の目指すべき方向性の検討

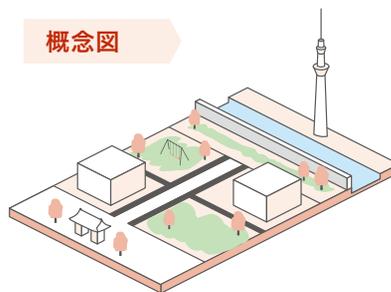
- ・街並みの維持保全
- ・日常的な交流イベント、文化・産業コンテンツの発信
- ・魅力的な都市機能の誘致・導入
- ・景観ルールの運用
- ・東参道・二天門通り周辺の公共空間の再編や活用
- ・観光バス駐車場や乗降場の整備方針の作成、整備の実現
- ・災害時の避難に資する空間の確保

未来のまちのイメージ



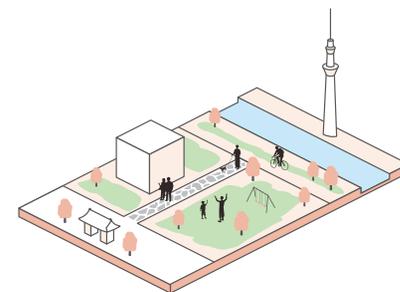
公共施設や公園と通りが個々に分かれていた状況から、各空間が連続的につながって、住む人・商いをする人・訪れる人が集まり行き交っており、浅草寺から隅田川まで往来したくなる場所として空間が再編されています。

概念図



■ 現状

浅草寺から隅田川へとつながる空間は公共施設や公園が個別に配置されており、人の往来が生まれづらい状況です。



■ 未来

住む人・商いをする人・訪れる人が集える一体的な空間として再編され、浅草寺や隅田川等、各目的地への人の往来や交流を促進します。

5 賑わいの拠点の発展プログラム (六区ブロードウェイ周辺)

ありたい姿

地域による活動が活発に行われている、「賑わいのある西の回遊拠点」として発展させます。

- 興行や大衆芸能の中心地として、浅草の賑わいを支えてきた数々の取り組みを展開します。
- 主要な通りでは、快適に通行でき、人々の往来を十分に受け止め、歩行者がゆったりと滞留できる空間を確保します。
- 浅草の西側を代表する観光拠点が生まれ、東側を訪れた人の集客を促進します。

取り組み

- 幅広い世代に向けた、浅草の歴史・まち・文化への理解を深めるための情報発信とイベントの実施
- 広がりのある浅草を楽しめる、おすすめの観光ルートの発信
- 生活に根付いた祭りやイベントにあわせて柔軟にかたちを変えるまちの環境整備
- 多様な訪れる人に向けた、観光施設や駅周辺等における防災・災害情報発信の充実
- 通りの賑わいを維持・向上させる、まちづくりの担い手の育成
- 未来のまちの姿につながる空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 商店街等における人と人がつながる機会の創出
- ナイトタイムでも楽しめる滞留空間やコンテンツづくりの整備
- 興行街の歴史を活かしたエリアのシンボルとなる滞留拠点の整備事業の推進
- 通りや水辺空間の賑わい創出と維持管理に取り組むエリアマネジメントの活性化
- ストーリー性を感じることができる商店街ファサードの整備
- 浅草駅(TX)や田原町駅と六区ブロードウェイとのつながりを意識した回遊の促進
- 公共空間や空き店舗などを活用した休憩スペースや案内サービスの充実
- 持続可能な観光の促進に向けた受入環境整備
- 「芸の聖地」浅草の大衆芸能の文化を体験し、楽しめる場の充実

進行イメージ

浅草寺創建
1400年

東武浅草駅開業・隅田公園開園
震災復興100周年

計画見直し
予定

台東区
100周年

2028
頃

2030
頃

2038
頃

2047
頃

- ・民間主導による拠点施設(ランドマーク施設等)の整備・誘致に向けた検討
- ・浅草駅(TX)や田原町駅と六区ブロードウェイとのつながりを意識した回遊促進方針の検討
- ・エリアマネジメントによる継続的な維持管理・イベント等の実施
- ・公共空間利活用に向けた社会実験
- ・六区ブロードウェイ等のほこみち制度の活用
- ・浅草六区地区計画やデザインガイドラインの検証
- ・歩行者専用時間帯の拡大

- ・民間主導の拠点整備等の方針や計画の作成
- ・浅草駅(TX)や田原町駅と六区ブロードウェイとのつながりを意識した回遊促進策の推進
- ・エリアマネジメント体制の拡充
- ・社会実験を踏まえた歩行者空間等のあり方検討
- ・地区計画等の運用の見直し

- ・民間主導による拠点施設の整備の実現
- ・エリアマネジメントによる持続可能な活動の展開
- ・地区計画に沿った街並みの更新
- ・浅草駅(TX)や田原町駅と六区ブロードウェイの回遊促進の展開
- ・公共空間でのイベントを背景とした、興行場などの施設整備の展開

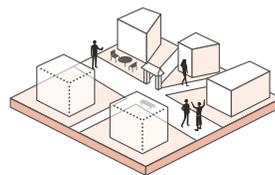
未来のまちのイメージ

屋外で演芸が行われていたり、活気を感じながら滞留できる場所が生まれたりするなど、六区ブロードウェイを中心に浅草ならではの賑わいが創出されています。



それぞれ個性を有する商店街では、通りごとに建物のデザインやファサードが整い、気軽に滞留できる場所が設けられるなど、まちや商いの賑わいが一層感じやすい空間が広がっています。

概念図



■ 現状

興行や大衆芸能の中心地として、六区ブロードウェイを主軸に賑わいが生まれている状況です。



■ 未来

公共空間の積極的な利活用をさらに促進することで、六区ブロードウェイをさらに発展させ、浅草ならではの興行や大衆芸能による賑わいや文化を、周辺の通りや空間にも広げていきます。

まちづくりビジョンの検討ステップにおいて、まちの方々より、
 未来のまちのイメージにつながる意見をたくさんいただきました。

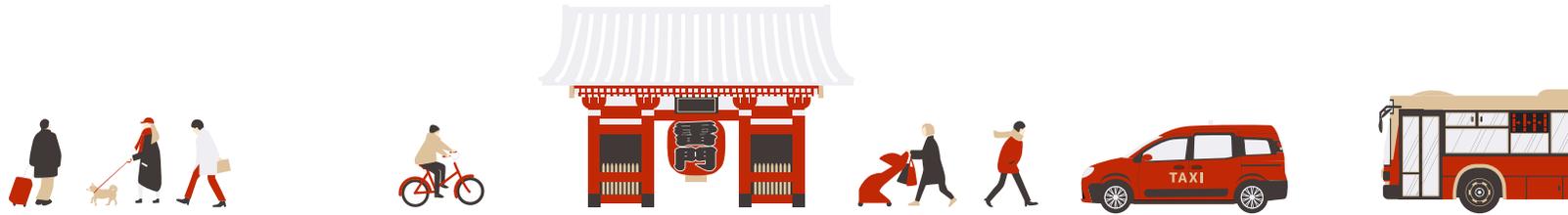
II・III章に示す「取り組み」のほかにも、本図案策定に関わった地域の方々の未来のまちの姿に対する想いや、
 いつか実現できたらよいと考える取り組みを「アイデア」として紹介します。

住環境

- 人とのつながりや次世代への継承の推進
- 住む人の活力の創造
- 昔から浅草に住んでいる人と、新たに引っ越してきた人との良好な交流・コミュニティの創出
- 子育て世帯が定住したくなるまちづくりの推進
- 住む人や商いをする人のための居場所の充実・満足度の向上
- 新規出店者と昔から商いをする人とのつながりの強化・若い経営者への支援
- 新規出店者の意識・ルールづくりの推進
- 各商店街の連携による地域の活性化
- マンションの1階部分における、地域に開かれた店舗や交流空間の創出

観光

- 店先で商いをする人とのコミュニケーションを楽しむ機会の充実
- 興行をしたい人へのメリットがある官民連携での誘導
- 江戸芝居小屋の整備
- 浅草とスカイツリーをつなぐ一大回遊動線となる“光の道”の創出(スカイツリー～浅草寺～観音裏エリアへとつながるライトアップの演出)
- 浅草を東西方向に結ぶ通りにおける、ものづくりマルシェ等による道路空間の活用
- 伝統工芸の各工房における作品展示場やカフェの併設
- 滞在時間を延ばすコト消費(体験消費)の充実
- 夜の飲食や観光で宿泊を増やすことによる滞在時間の延長
- 言問通りにおける、マルシェ開催などのイベントの実施・水辺方面や上野方面への賑わいの形成
- 伝統芸能の魅力発信・料亭を増やすための仕組みづくりの推進
- 富裕層にも対応した商品・サービスの充実
- ボランティアガイドのさらなるレベルアップ・有償化
- 地域のお店紹介とセットとなったガイドの普及
- 店舗同士の協力体制の強化
- 滞在時間の分散の促進
- 浅草ならではの過ごし方を示す“ガイドブック”の作成・訪れる人への発信
- 公共施設や民間施設のトイレや喫煙所利用に関する一般開放の呼びかけ
- 訪れる人が集中するエリアにおける、観光と生活に資する官民連携による公共施設の整備
- 浅草の歴史・文化を語り部として活躍する機会の充実



防災

- 台東区だけでなく隅田川沿川で連携した堤防の整備
- 観光客が多く訪れるまちとしての有事対応体制の構築
- 安全面を意識した地域のイベントや活動の充実
- 地域の防災知識の次世代への継承
- 町会での避難訓練等、地域コミュニティを基盤とした防災活動の実施
- 発災時における飲食店の開放など、民間施設の協力による避難場所の充実
- 発災時にも自らの位置関係をすぐに把握できる案内サインの充実

水辺

- 隅田川の魅力を活用した、プロモーションの推進
- 子育て世帯やペット連れが楽しめる空間の創出
- 水辺空間の利活用に関する許可窓口の一本化
- 自転車を積み込み、浅草とお台場方面を行き来できる舟運の活用
- 訪れる人の荷物輸送につながる舟運の活用・隅田川の近くに荷物を預けることができる拠点の設置
- 自家用の船も乗り付けることができるような水辺空間の整備
- 伝法院通り～東武浅草駅北口～助六夢通りをつなぐ水辺への動線の活用

交通

- 駅周辺の思い切ったまちづくりの推進
- 東西動線の強化(浅草～上野間 浅草～スカイツリー間との連携)
- まちと一体になったわかりやすい案内の充実
- 交通拠点での手荷物預かりサービスや段差解消など、スーツケース利用者の利便性向上
- 高齢者や子ども連れが利用しやすい、駅ターミナルの乗換え利便性の向上
- トイレなど駅施設の使いやすさの向上
- バイク駐車場の不足の解消
- 坂のない地形を活かした自転車利用の促進

etc その他

- 古い歴史を残しつつ、近未来的なものも取り入れた、いろいろな色のあるまちの創造
- 世間一般の人々に喜んでもらえるまちの創造
- 地元の人に限らず、周りから来る人にも愛されるまちの創造
- 住む人が「面白い」と感じる回遊の創出
- 浅草で働く従業員のランチや休憩ができる場所の確保
- 墨田区と連携した、もう少し広い「下町圏」で捉えたまちの形成
- 物理的に狭い浅草のまちの状況を踏まえた隣接区との協力による広域的な土地活用の推進

※掲載しているアイデアは、いただいた想いの一部であり、この他にもまちの未来に向けた様々なご意見やご提案をいただきました。地域の方々の「こんな浅草になったらいいな」という声を大切にしながら、今後のまちづくりを進めていきます。

描いた未来を実現する。

それは、ここからが本番です。

浅草は、まちの人々とつくり上げてきたまち。

これからも力をあわせて、

まちの未来をともにつくり上げてまいりましょう。

皆様とともに描く 未来の浅草に向けて

浅草は、古くからの歴史や文化の魅力、そこで培われてきた暮らしや営み、利便性の高い交通環境など多彩な資源があふれるまちです。

本図案では、これらの浅草の資源を活かしながら、概ね20年後のまちの姿に向けて、「歴史がある、新しいまち浅草」を掲げ、戦略的にまちづくりを進めていくことを示しています。

策定にあたっては、学識経験者や地域団体、鉄道事業者などで構成する「浅草地区まちづくりビジョン策定委員会」やより具体的な検討を行う専門部会を設置し、長期間にわたり、熱心に議論を重ねていただきました。また、この他にも、地域のまちづくり協議会からもご意見をいただくなど、多くの皆様にご協力いただきながら、つくり上げることができました。

今後は、このビジョンを手に、地域や関係事業者の皆様と一丸となって、ビジョンの実現に向けて取り組んでまいりますので、これまで以上のご理解、ご協力をお願いいたします。

結びに、策定にあたり、浅草地区まちづくりビジョン策定委員や部会員、まちづくり協議会をはじめ、貴重なご意見をいただきました区民や関係事業者の皆様、心から御礼申し上げます。

令和8年3月

台東区長 服部 征夫

浅草未来図案 -まちづくりビジョン-

令和8年3月発行（令和7年度登録 第●●号）

台東区都市づくり部 地域整備第二課 〒110-8615 東京都台東区東上野4丁目5番6号 電話 03(5246)1366(直通)